

直営の

しろくまハウス 開設



▲利用アンケートbox



▲入口。暗証番号式電子錠。オートロックで鍵が利用ごとに変わる。

検討委員会の結論に基づき昨年七月一日より、直営のファミリーハウス「しろくまハウス」を札幌市中央区大通西十五丁目に開設しました。

バス・トイレ付きの洋室ワンルームで、テレビ・電子レンジ・冷蔵庫・洗濯機など、滞在する際の最低限の備品を揃えています。札幌医科大学附属病院（中央区南一西十六）と連携し、入院している小児の付き添い家族を対象に運営をしてみました。

初年度の稼働率は三割程度と見込んでおりましたが、

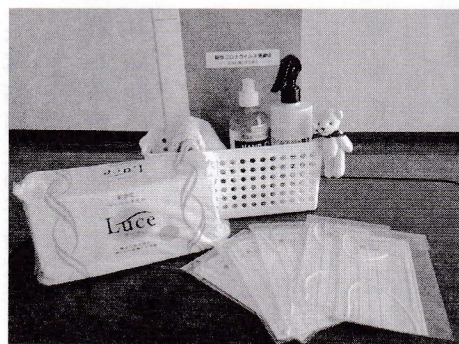


▲しろくまハウス室内

今年三月の時点で五十四・五パーセントとまずまずの結果となりました。

四月からは新型コロナウイルスの影響で休業をしておりましたが、再開後はより一層安心して利用していただけるよう、利用者のアンケートの声も取り入れ、スタッフ一丸となって対応していきます。

さらに今後は近隣の病院とも連携を取り、情報収集や利用分析を基に、二室、三室と事業拡大を計ります。



▲感染症対策用品

病気の子どもと
家族が抱える事

なかなか治らない微熱、いつになくゴロゴロしてだるそう、おなかが痛いなど、風邪が長引いているのかと小児科を受診すると、大きな病院への転院を勧められ、入院をすることに。

初めての入院、さまざまな検査の後に病名告知。子どもにも、病名についての説明や病名告知は年齢に応じた医師と親が相談しながら行います。

診断後の難しい医療用語

に戸惑いながらの治療選択、治療に伴う副作用により、ムーンフェイスや脱毛といった風貌変化など、一度に色々なことが起こります。

ほとんどの病院では、親は子どもに付き添って泊まり込みます。遠方からの入院や、共稼ぎで核家族、病気の子ども他に兄弟姉妹がいると残された子どもたちを誰が見るのでしょうか。

幼稚園や保育園、学校のこと、夫婦間の絆、医療者との関わりなど、親や家族は試験の連続です。

ファミリーハウスの
仲間に加わりました

新しくファミリーハウスとして「ちよい寝ホテル札幌手稲」さまにご協力いただくことになりました。心から感謝申し上げます。

ちよい寝ホテル
札幌手稲

札幌市手稲区富丘3条7丁目
☎(011) 6881-8707

2019
年度助成金・ご寄付・ご協力
(敬称略)

北海道信用金庫社会福祉基金

赤い羽根共同募金会

七万五千元

サークル27

一万円

とく名(個人)

一万円

片野 梢(個人)

三千元

洞内 亜希子(個人)

三千元

高沼 由美子(個人)

金券

宮町 葉子(個人)

一万円

シルバー人材センター 札幌中央支部

ご協力

株式会社オール

ご協力

ご支援のご協力に感謝申し上げます

ご協力

子どもたちは、不安や孤立感を抱えながら多感な日々を過ごします。

病気と向き合い、再発や晩期合併症の不安を抱えながらも進学、就職、結婚、出産、子育てと、さまざまな人生の節目を迎えます。

病気の子どもの持つ親や、当事者である子どもたちの悩みや、不安な気持ちを受け止め、どのような支援が必要か、さまざまな方たちの協力を頂きながら、課題や問題を解決していかねければならないと思います。

(副理事長 神戸 智子)